

周年放牧方式で生産される黒毛和種去勢牛およびF1去勢牛の肥育成績の年度間比較

松山 義弘

目的

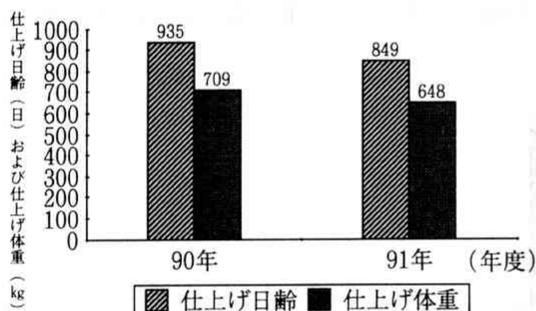
周年放牧生産肥育素牛を用いた黒毛和種およびF1（ホルスタイン種×黒毛和種）の肥育方式を確立する基礎資料を得るため、肥育成績の年度による違いを検討した。

材料と方法

平成2年度および平成3年度（6月まで）に出荷された黒毛和種去勢牛37頭とF1牛11頭の肥育成績を用いた。比較した項目は仕上げ日齢、仕上げ体重、歩留まり等級、肉質等級である。

結果と考察

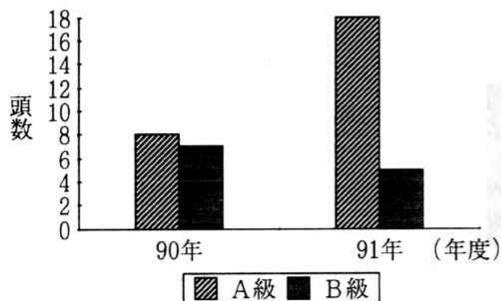
入来牧場における黒毛和種去勢肥育牛の仕上げ日齢と仕上げ体重の年度による違いを第1図に示した。仕上げ日齢は90年度の約31ヵ月から91年度の28ヵ月へ短縮された。



第1図 周年放牧生産子牛を用いた黒毛和種去勢肥育牛の仕上げ日齢および仕上げ体重の年度による違い

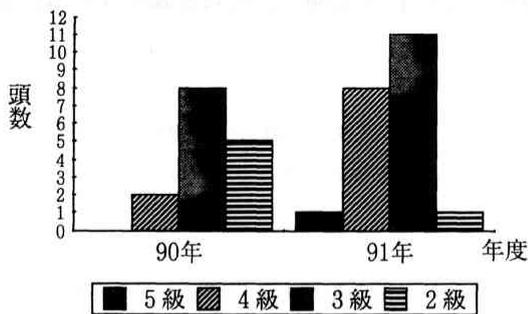
このため仕上げ体重は709kgから648kgへ軽くなった。

黒毛和種去勢肥育牛の枝肉歩留まり等級の年度別出現頭数を第2図に示した。91年度はA級が増加し、B級は減少した。



第2図 周年放牧生産子牛を用いた黒毛和種去勢肥育牛の枝肉歩留等級の年度別頭数の違い

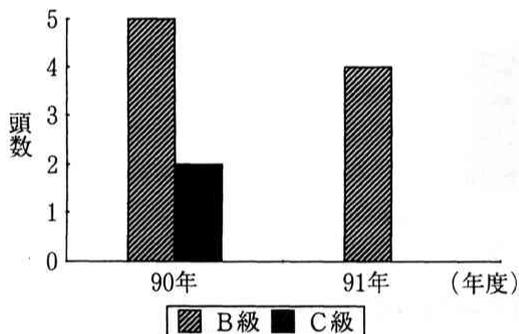
黒毛和種去勢肥育牛の枝肉格付けの年度別出現頭数を第3図に示した。



第3図 周年放牧生産子牛を用いた黒毛和種去勢肥育牛の枝肉格付等級の年度別頭数の違い

90年度は2級が5頭出たが、91年度には1頭に減少した。また、91年度には4級が増加し、5級も1頭見られた。しかし、依然として3級の頭数が多く見られた。

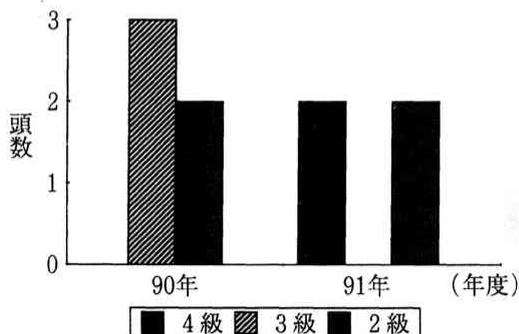
F1去勢肥育牛の枝肉歩留まり等級の年度別出現頭数の違いを第4図に示した。90年度にはC級



第4図 F1去勢肥育牛枝肉歩留等級の年度別頭数の違い

が見られたが、91年度にはB級のみになり、歩留まりの改善が見られた。

F1去勢肥育牛の枝肉格付けの年度別出現頭数の違いを第5図に示した。91年度では90年度に見



第5図 F1去勢肥育牛枝肉格付等級の年度別頭数の違い

られなかった4級が2頭出現した。しかし、2級も依然として2頭出現した。

摘 要

- 1 黒毛和種肥育牛の仕上げ日齢は935日から849日に短縮され、仕上げ体重は709kgから648kgへ軽くなった。
- 2 黒毛和種の歩留まり等級はA級が増加し、F 1ではC級がいなくなり、90年度より改善された。
- 3 黒毛和種の肉質等級は4級が増加し2級はいなくなった。しかし、5級は1頭であった。F 1では4級が2頭、2級が2頭で2年度より改善された。
- 4 周年放牧黒毛和種を用いた肥育技術の確立は現在未確立であり、地域産業との関係から早急な確立が必要である。